

杏林大学医学部(後期) 数学

2019年 3月4日実施

I

ケ, セ, タ, ナ, ニ の解答は該当する解答群から最も適当なものを選び。

(1) 下記9個のデータ

2, 4, 1, 4, 2, 5, 2, 5, 2

の中央値は ア, 平均値は イ, 最頻値は ウ, 分散は エ である。

(2) 下記2つの条件によって定められる数列 $\{a_n\}$ を考える。

$$a_1 = 1, a_{n+1} = \frac{1}{2}a_n + \frac{2^{(1-n)}}{7} \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$$

$a_3 = \frac{\text{オカ}}{\text{キク}}$ である。 $n > 3$ を満たす n に対して上記条件を繰り返し適用すると

$$a_n = \frac{1}{2}a_{n-1} + \frac{2^{\text{ケ}}}{7} = \frac{1}{\text{コ}}a_{n-2} + \frac{\text{サ}}{7}2^{\text{ケ}}$$

のように、 a_n をより n の小さい項で表すことができる。よって、数列 $\{a_n\}$ の一般項は

$$a_n = \frac{\text{シ}}{\text{ス}}2^{\text{セ}} + \frac{n}{\text{ソ}}2^{\text{タ}}$$

と求められる。数列 $\{a_n\}$ の初項から第 n 項までの和を S_n とすると、

$$S_n = \frac{1}{\text{チ}} \left(\text{ツテ} - \text{ト}2^{\text{ナ}} - n \times 2^{\text{ニ}} \right)$$

であり、次式が成り立つ。

$$\lim_{n \rightarrow \infty} S_n = \frac{\text{ヌネ}}{\text{ノ}}$$

ケ, セ, タ, ナ, ニ の解答群

- ① $-n-2$ ② $-n-1$ ③ $-n$ ④ $-n+1$ ⑤ $-n+2$

解答

(1) 9個のデータを小さい順に並べると、

1, 2, 2, 2, 2, 4, 4, 5, 5

したがって、中央値は **2**、平均値は

$$\bar{s} = \frac{1 + 2 + 2 + 2 + 2 + 4 + 4 + 5 + 5}{9} = \mathbf{3},$$

最頻値は **2** となる.

また、各データの平方の平均値は

$$\overline{s^2} = \frac{1^2 + 2^2 + 2^2 + 2^2 + 2^2 + 4^2 + 4^2 + 5^2 + 5^2}{9} = 11$$

であるため、分散は $\overline{s^2} - (\bar{s})^2 = 11 - 3^2 = \mathbf{2}$.

$$(2) \quad a_2 = \frac{1}{2}a_1 + \frac{1}{7} = \frac{9}{14}, \quad a_3 = \frac{1}{2}a_2 + \frac{2^{-1}}{7} = \frac{\mathbf{11}}{\mathbf{28}}.$$

$$a_{n+1} = \frac{1}{2}a_n + \frac{1}{7} \left(\frac{1}{2} \right)^{n-1} \quad \dots \textcircled{1}$$

を繰り返し用いて、

$$\begin{aligned} a_n &= \frac{1}{2}a_{n-1} + \frac{1}{7} \left(\frac{1}{2} \right)^{n-2} \\ &= \frac{1}{2}a_{n-1} + \frac{2^{2-n}}{7} \\ &= \frac{1}{2} \left\{ \frac{1}{2}a_{n-2} + \frac{1}{7} \left(\frac{1}{2} \right)^{n-3} \right\} + \frac{1}{7} \left(\frac{1}{2} \right)^{n-2} \\ &= \frac{1}{4}a_{n-2} + \frac{2}{7} \left(\frac{1}{2} \right)^{n-2} \\ &= \frac{1}{4}a_{n-2} + \frac{2}{7} 2^{2-n} \end{aligned}$$

① の両辺に 2^{n+1} をかけて、

$$2^{n+1}a_{n+1} = 2^n a_n + \frac{4}{7}$$

したがって、数列 $\{2^n a_n\}$ は公差 $\frac{4}{7}$ の等差数列だから

$$\begin{aligned} 2^n a_n &= 2^1 a_1 + \frac{4}{7}(n-1) \\ &= \frac{4n+10}{7} \\ a_n &= \frac{4n+10}{7} \left(\frac{1}{2} \right)^n \\ &= \frac{10}{7} \left(\frac{1}{2} \right)^n + \frac{4n}{7} \left(\frac{1}{2} \right)^n \\ &= \frac{5}{7} \left(\frac{1}{2} \right)^{n-1} + \frac{n}{7} \left(\frac{1}{2} \right)^{n-2} \\ &= \frac{5}{7} 2^{1-n} + \frac{n}{7} 2^{2-n} \end{aligned}$$

更に $a_n = \frac{4n+10}{7} \left(\frac{1}{2} \right)^n$ を適当な定数 A, B を用いて次のように変形する.

$$a_n = \frac{An+B}{7} \left(\frac{1}{2} \right)^n - \frac{A(n-1)+B}{7} \left(\frac{1}{2} \right)^{n-1} \quad \dots \textcircled{2}$$

これは,

$$a_n = \frac{-An + 2A - B}{7} \left(\frac{1}{2}\right)^n$$

となるから,

$$\begin{cases} -A = 4 \\ 2A - B = 10 \end{cases} \iff \begin{cases} A = -4 \\ B = -18 \end{cases}$$

とすればよい. したがって ② より

$$\begin{aligned} S_n &= \sum_{k=1}^n \left\{ \frac{Ak + B}{7} \left(\frac{1}{2}\right)^k - \frac{A(k-1) + B}{7} \left(\frac{1}{2}\right)^{k-1} \right\} \\ &= \frac{An + B}{7} \left(\frac{1}{2}\right)^n - \frac{B}{7} \\ &= -\frac{4n}{7} \left(\frac{1}{2}\right)^n - \frac{18}{7} \left(\frac{1}{2}\right)^n + \frac{18}{7} \\ &= -\frac{n}{7} \left(\frac{1}{2}\right)^{n-2} - \frac{9}{7} \left(\frac{1}{2}\right)^{n-1} + \frac{18}{7} \\ &= \frac{1}{7} (18 - 9 \cdot 2^{1-n} - n \times 2^{2-n}) \end{aligned}$$

である. こうして $\lim_{n \rightarrow \infty} S_n = \frac{18}{7}$ となる.

II

原点を極, x 軸の正の部分を開始とする極座標に対し, 極方程式 $r = \frac{5}{3 - 2 \cos \theta}$ で表される楕円を C とする.

(a) 楕円 C 上の点 (x, y) は, 下記の方程式を満たす.

$$\frac{(x - \boxed{\text{ア}})^2}{\boxed{\text{イ}}} + \frac{y^2}{\boxed{\text{ウ}}} = 1$$

楕円 C の 2 つの焦点のうち, x 座標の値が大きいものは ($\boxed{\text{エ}}$, $\boxed{\text{オ}}$) であり, 楕円 C の離心率は $\frac{\boxed{\text{カ}}}{\boxed{\text{キ}}}$ である, 点 $P(x, y)$ が楕円 C 上を動くとき, $2x + y$ の最大値は $\boxed{\text{ク}} + \sqrt{\boxed{\text{ケコ}}}$ である.

(b) 2 つの焦点の中点が頂点と一致するように, C を x 軸の負の方向に $\boxed{\text{サ}}$ だけ平行移動して得られる楕円を D とする. 楕円 D の接線と x 軸, および y 軸で囲まれる三角形の面積の最小値は $\boxed{\text{シ}} \sqrt{\boxed{\text{ス}}}$ であり, 最小値を実現する楕円 D の接線は $\boxed{\text{セ}}$ 本存在する. このうち, 第 1 象限にある接点の座標は

$$\left(\frac{\boxed{\text{ソ}} \sqrt{\boxed{\text{タ}}}}{\boxed{\text{チ}}}, \frac{\sqrt{\boxed{\text{ツテ}}}}{\boxed{\text{ト}}} \right) \text{ である.}$$

(c) 複素数平面において, 点 z が原点を中心とする半径 r の円周上を動くとき,

$$x + iy = z + \frac{k}{z} \quad (\text{ただし, } i \text{ は虚数単位, } k \text{ は実数定数})$$

を満たす実数の組 (x, y) の描く図形が楕円 D であったとすると,

$$t = \frac{\boxed{\text{ナ}} + \sqrt{\boxed{\text{ニ}}}}{\boxed{\text{ヌ}}}, \quad k = \boxed{\text{ネ}}$$

が成り立つ.

解答

(a) $r = \frac{5}{3 - 2 \cos \theta}$ より, $3r = 2r \cos \theta + 5$ であるから, 両辺を 2 乗すると,

$$9r^2 = (2r \cos \theta + 5)^2$$

$r^2 = x^2 + y^2$, $r \cos \theta = x$ より,

$$\begin{aligned} 9(x^2 + y^2) &= (2x + 5)^2 \iff 9x^2 + 9y^2 = 4x^2 + 20x + 25 \\ &\iff 5(x - 2)^2 + 9y^2 = 45 \\ &\iff \frac{(x - 2)^2}{9} + \frac{y^2}{5} = 1 \end{aligned}$$

楕円 C の 2 つの焦点は $(2 \pm \sqrt{9 - 5}, 0)$, すなわち $(0, 0)$, $(4, 0)$ であるから, x 座標の値が大きいものは, $(4, 0)$ である.

また, 焦点 $(0, 0)$ を F , 準線 l の方程式を $x = k$ とする.

楕円 C は, 焦点 F からの距離と, 準線 l からの距離の比が一定値 e となる点の集合であり, このときの定数 e を

離心率という.

したがって, 次の式の値が θ によらず一定となればよい.

$$\begin{aligned} \left| \frac{r}{r \cos \theta - k} \right| &= \left| \frac{1}{\cos \theta - \frac{k}{r}} \right| \\ &= \left| \frac{1}{\cos \theta - \frac{k}{5}(3 - 2 \cos \theta)} \right| \\ &= \left| \frac{1}{\left(1 + \frac{2}{5}k\right) \cos \theta - \frac{3}{5}k} \right| \end{aligned}$$

この値が一定となる時, $1 + \frac{2}{5}k = 0 \iff k = -\frac{5}{2}$ であり, 離心率 e は,

$$e = \left| \frac{1}{-\frac{3}{5} \cdot \left(-\frac{5}{2}\right)} \right| = \frac{2}{3}$$

C 上の点 P を $(2 + 3 \cos t, \sqrt{5} \sin t)$ とすると,

$$\begin{aligned} 2x + y &= 4 + \sqrt{5} \sin t + 6 \cos t \\ &= 4 + \sqrt{(\sqrt{5})^2 + 6^2} \sin(t + \alpha) \\ &= 4 + \sqrt{41} \sin(t + \alpha) \end{aligned}$$

となる実数 α が存在する.

$t + \alpha$ は実数全体を動けるから, $2x + y$ の最大値は $4 + \sqrt{41}$ である.

- (b) 楕円 C の 2 つの焦点の midpoint は $\left(\frac{0+4}{2}, 0\right) = (2, 0)$ であるから, C を x 軸の負の方向に **2** だけ平行移動すればよい. このとき, 楕円 D の方程式は次のようになる.

$$D: \frac{x^2}{9} + \frac{y^2}{5} = 1$$

これは x 軸, y 軸, 原点に関して対称なので, 第 1 象限にある D 上の点を $Q(3 \cos u, \sqrt{5} \sin u)$ とする. (ただし, $0 < u < \frac{\pi}{2}$).

点 Q における D の接線の方程式は,

$$\frac{3 \cos u}{9} x + \frac{\sqrt{5} \sin u}{5} y = 1 \iff \frac{\cos u}{3} x + \frac{\sin u}{\sqrt{5}} y = 1$$

したがって, x 軸, y 軸との交点をそれぞれ R, S とすると, $R\left(\frac{3}{\cos u}, 0\right), S\left(0, \frac{\sqrt{5}}{\sin u}\right)$ であり,

$$\triangle ORS = \frac{1}{2} \cdot \frac{3}{\cos u} \cdot \frac{\sqrt{5}}{\sin u} = \frac{3\sqrt{5}}{\sin 2u}$$

$0 < 2u < \pi$ より $0 < \sin 2u \leq 1$ であるから, $\triangle ORS$ の面積は $2u = \frac{\pi}{2} \iff u = \frac{\pi}{4}$ において最小値 $3\sqrt{5}$ をとる.

最小値を実現する楕円 D の接線は、各象限に接点が 1 個ずつあるから 4 本存在する。
このうち、第 1 象限にある接点の座標は、

$$\left(3 \cos \frac{\pi}{4}, \sqrt{5} \sin \frac{\pi}{4}\right) = \left(\frac{3\sqrt{2}}{2}, \frac{\sqrt{10}}{2}\right)$$

(c) $z = r(\cos \phi + i \sin \phi)$ とおくと、

$$\begin{aligned} x + iy &= z + \frac{k}{z} \\ &= r(\cos \phi + i \sin \phi) + \frac{k}{r}(\cos \phi - i \sin \phi) \\ &= \left(r + \frac{k}{r}\right) \cos \phi + i \left(r - \frac{k}{r}\right) \sin \phi \end{aligned}$$

実部、虚部を比較すると、

$$x = \left(r + \frac{k}{r}\right) \cos \phi, \quad y = \left(r - \frac{k}{r}\right) \sin \phi$$

(x, y) の描く図形が楕円 D であったとすると、

$$\left(r + \frac{k}{r}, r - \frac{k}{r}\right) = (\pm 3, \pm \sqrt{5}) \text{ (複号任意)}$$

したがって、

$$2r = \pm 3 \pm \sqrt{5} \text{ (複号任意)}$$

となるが、 r は円の半径で正の値なので、 $\left(r + \frac{k}{r}, r - \frac{k}{r}\right) = (3, \pm \sqrt{5})$ の 2 組に絞ることができ、

$$(r, k) = \left(\frac{3 \pm \sqrt{5}}{2}, 1\right)$$

このうち、問題文の形式に合うものは、 $r = \frac{3 + \sqrt{5}}{2}$, $k = 1$.

III

座標空間において、点 $A(0, 0, 6\sqrt{2})$, $B(0, -3, 0)$ を結ぶ線分を $1:2$ に内分する点を P とし、線分 AB を z 軸のまわりに 1 回転させてできる曲面を C とする。

(a) $AB = \boxed{\text{ア}}$ であり、曲面 C を線分 AB によって切り開いて得られる展開図は、中心角 $\frac{\boxed{\text{イ}}}{\boxed{\text{ウ}}}\pi$ の扇形である。

(b) 曲面 C と xy 平面との共有点のうち、点 P からの距離が最大となる点 Q の座標は $(\boxed{\text{エ}}, \boxed{\text{オ}}, 0)$ であり、 $PQ = \boxed{\text{カ}}\sqrt{\boxed{\text{キ}}}$ が成り立つ。

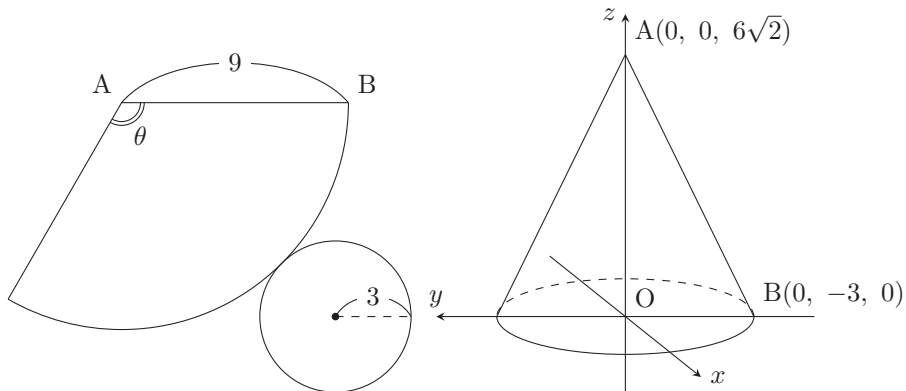
(c) 2点 P, Q を最短で結ぶ曲面 C 上の曲線を L とする。 L の長さは $\boxed{\text{ク}}\sqrt{\boxed{\text{ケ}}}$ である。 曲線 L と xz 平面との交点を R とすると、 $AR = \frac{\boxed{\text{コ}}}{\boxed{\text{サ}}}\sqrt{\boxed{\text{シ}}}$ が成り立つ。

(d) 曲線 L 上の動点を S とする。 点 S が点 P から出発して点 Q に至る間に、線分 AS が通過する領域の面積は $\frac{\boxed{\text{スセ}}}{\boxed{\text{ソ}}}\sqrt{\boxed{\text{タ}}}$ である。

解答

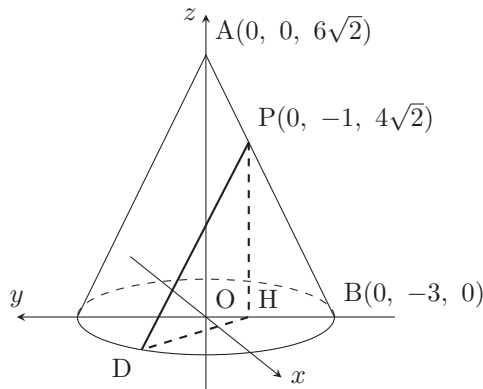
以下、展開図とは「曲面 C を線分 AB によって切り開いて得られる展開図」を指すものとする。

(a) $AB = \sqrt{0^2 + 3^2 + (-6\sqrt{2})^2} = \sqrt{81} = 9$



曲面 C は半径 3 の円を底面とし、母線の長さが 9 の直円錐の側面である。展開図を考えると扇形の中心角を θ とすると、 $9\theta = 2 \cdot 3 \cdot \pi$ 。よって $\theta = \frac{2}{3}\pi$

(b)

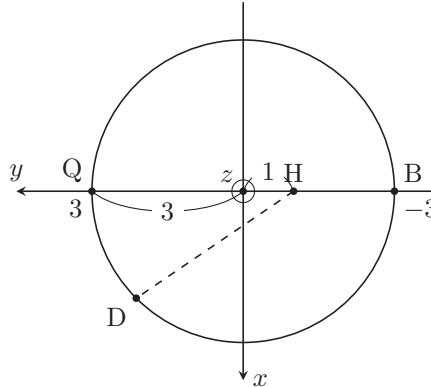


曲面 C と xy 平面との共有点は、原点 O を中心とする半径 3 の円を描く。その円周上を動く点を D とする。

また、点 P から xy 平面に下ろした垂線の足を H とすると、三平方の定理から

$$PD^2 = PH^2 + HD^2 = \left(6\sqrt{2} \cdot \frac{2}{3}\right)^2 + HD^2 = 32 + HD^2$$

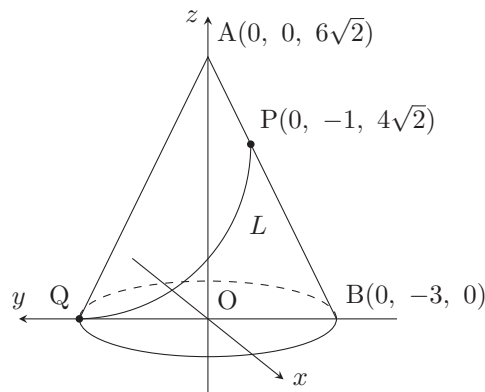
が成り立つ。HD が最大になるとき、PD も最大となるので、そのときの点 D が点 Q である。



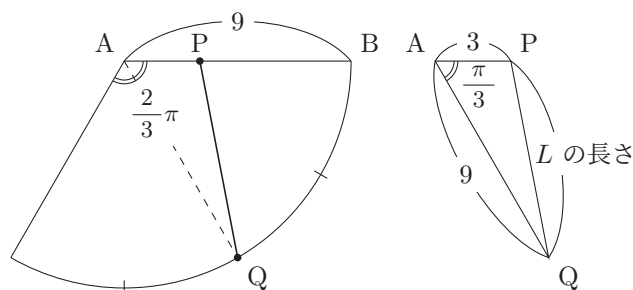
図のように、HD が最大になるのは、点 D が $(0, 3, 0)$ にあるときだから、 $Q(0, 3, 0)$.

よって、 $PQ^2 = 32 + HQ^2 = 32 + (1+3)^2 = 48$ である。よって $PQ = 4\sqrt{3}$.

(c)

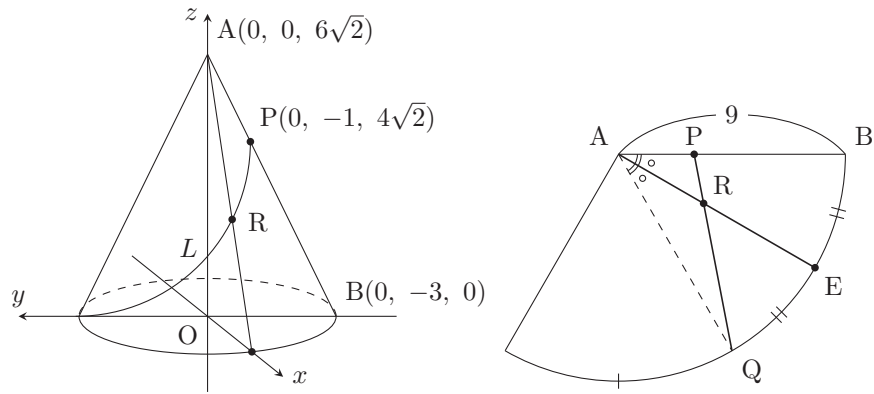


展開図を考えると、点 Q は扇形の円弧を 2 等分する。



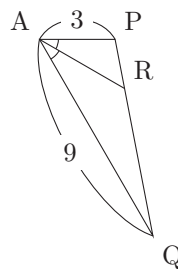
この展開図において、線分 PQ の長さが L の長さとなるから、上左図のようになる。△APQ に注目すると、余弦定理より

$$\begin{aligned} (L \text{ の長さ}) &= \sqrt{81 + 9 - 2 \cdot 9 \cdot 3 \cdot \cos \frac{\pi}{3}} \\ &= \sqrt{63} \\ &= 3\sqrt{7} \end{aligned}$$



曲面 C と x 軸との交点を E とする. 点 R は AE と曲線 L との交点であるから, 展開図を考える. $\widehat{QE} = \widehat{EB}$ なので, $\angle QAE = \angle EAB = \frac{\pi}{6}$... ①

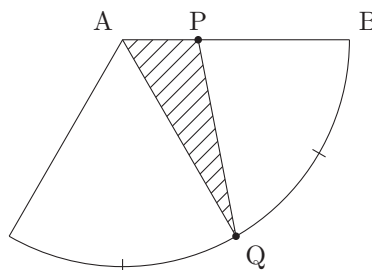
$\triangle APQ$ に注目する.



① より, $\angle QAR = \angle PAR = \frac{\pi}{6}$ であることから, 三角形の面積に注目して

$$\begin{aligned} \frac{1}{2} \cdot AR \cdot 9 \cdot \sin \frac{\pi}{6} + \frac{1}{2} \cdot AR \cdot 3 \cdot \sin \frac{\pi}{6} &= \frac{1}{2} \cdot 3 \cdot 9 \cdot \sin \frac{\pi}{3} \\ \frac{9}{2} AR + \frac{3}{2} AR &= \frac{27}{2} \sqrt{3} \\ \therefore AR &= \frac{9\sqrt{3}}{4} \end{aligned}$$

(d) 線分 AS が通過する部分の展開図を考えると, 次のようになる. (図の斜線部)



つまり, この展開図における $\triangle APQ$ の面積が, 線分 AS が通過する部分の面積になる.

よって, $\frac{1}{2} \cdot 3 \cdot 9 \cdot \sin \frac{\pi}{3} = \frac{27}{4} \sqrt{3}$.

IV

座標平面において、 $y = \frac{3}{2}x^2$ のグラフを放物線 C 、原点で C に接する半径 R の下に凸の半円を S とする。放物線 C 上を運動する点 P の x 座標が、時刻 t において $x = 2t - 4$ と表されるものとする。

- (a) 時刻が $t = 0$ から 3 まで経過したとすると、この間の点 P の y 座標は、 $t =$ において最大値 をとり、 $t =$ において最小値 をとる。以下、この最小値を実現する時刻を t_m とする。
- (b) 時刻が $t \neq t_m$ のとき、点 P における放物線 C の法線の方程式は

$$y = \frac{1}{\text{カ}(t_m - t)}x + \text{キ}t^2 - \text{クケ}t + \frac{\text{コサ}}{\text{シ}}$$

である。この法線の y 切片を $r(t)$ とすると

$$\lim_{t \rightarrow t_m} r(t) = \frac{\text{ス}}{\text{セ}}$$

が成り立つ。この極限値を ρ とする。

- (c) 時刻 t における点 P の速さ v と加速度 \vec{a} は

$$v = \text{ソ} \sqrt{\text{タチ}(t - t_m)^2 + \text{ツ}}$$

$$\vec{a} = (\text{テ}, \text{トナ})$$

と表される。したがって、時刻 $t = t_m$ において $\rho \times |\vec{a}| = v$ が成り立つ。

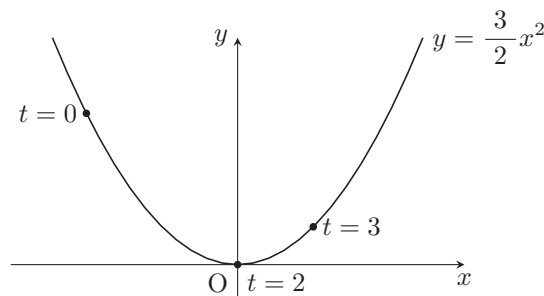
- (d) $t_m - \frac{1}{8} \leq t \leq t_m + \frac{1}{8}$ を満たす時刻 t において、半円 S 上にある点 Q は、その x 座標が点 P の x 座標と一致するように運動した。2点 P, Q の y 座標をそれぞれ y, Y とすると、

$$Y = R - \sqrt{\text{ヌ}x^{\text{ネ}} + R^2}$$

と書けるので、 $\lim_{x \rightarrow 0} \frac{Y - y}{y} = 0$ となるように S の半径 R を決めると $\frac{R}{\rho} =$ が成り立つ。

解答

- (a)



$t = 0$ のとき、点 P の座標は $(-4, 24)$ 、 $t = 3$ のとき、点 P の座標は $(2, 6)$ である。よって、放物線 C の形から、点 P の y 座標は $t = 0$ において最大値 24 、 $t = 2$ において最小値 0 をとる。つまり $t_m = 2$ である。

- (b) $P(2t - 4, 6t^2 - 24t + 24)$ と書ける。よって、点 P における放物線 C の法線の方程式は $t \neq 2$ より

$$y = \frac{1}{6(2 - t)}\{x - (2t - 4)\} + 6t^2 - 24t + 24$$

を計算して

$$y = \frac{1}{6(2-t)}x + 6t^2 - 24t + \frac{73}{3}$$

ここで $t_m = 2$ であるから、法線の方程式は

$$y = \frac{1}{6(t_m - t)}x + 6t^2 - 24t + \frac{73}{3}$$

よって、 $r(t) = 6t^2 - 24t + \frac{73}{3}$ であるから

$$\lim_{t \rightarrow t_m} r(t) = \lim_{t \rightarrow 2} r(t) = 24 - 48 + \frac{73}{3} = \frac{1}{3}$$

つまり、 $\rho = \frac{1}{3}$ である.

(c) 点 $P(x, y)$ とおくと、 $\begin{cases} x = 2t - 4 \\ y = 6t^2 - 24t + 24 \end{cases}$ であるから、

$$\begin{cases} \frac{dx}{dt} = 2 \\ \frac{dy}{dt} = 12t - 24 = 12(t - 2) \end{cases}$$

よって、

$$\begin{aligned} v &= \sqrt{\left(\frac{dx}{dt}\right)^2 + \left(\frac{dy}{dt}\right)^2} \\ &= 2\sqrt{1 + 36(t-2)^2} \\ &= 2\sqrt{(t-t_m)^2 + 1} \quad \dots \textcircled{1} \end{aligned}$$

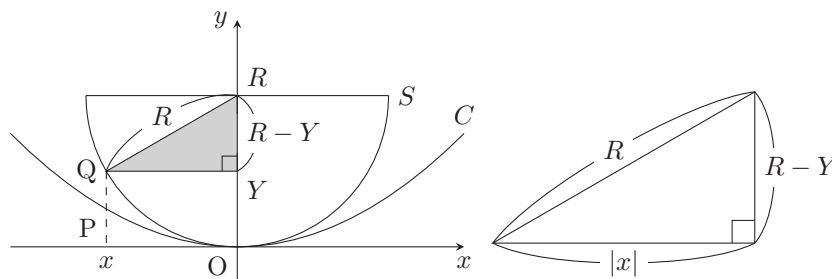
さらに、

$$\vec{a} = \left(\frac{d^2x}{dt^2}, \frac{d^2y}{dt^2}\right) = (0, 12) \quad \dots \textcircled{2}$$

$t = t_m = 2$ を ① に代入して $v = 2$, ② より $|\vec{a}| = 12$.

よって、 $\rho \times |\vec{a}| = \frac{1}{3} \times 12 = 4 = v^2$.

(d)



図のように、 $x \neq 0$ において斜線部分の直角三角形に注目し、三平方の定理を考えると

$$R - Y = \sqrt{R^2 - x^2} \iff Y = R - \sqrt{R^2 - x^2} \quad \dots \textcircled{3}$$

である. $x = 0$ のときも $Y = 0$ となり題意をみたす.

また、 $\lim_{x \rightarrow 0} \frac{Y - y}{y} = \lim_{x \rightarrow 0} \left(\frac{Y}{y} - 1\right) = 0$ に、③ と $y = \frac{3}{2}x^2$ ($x \neq 0$) を用いることで、

$$\lim_{x \rightarrow 0} \left(\frac{2}{3} \cdot \frac{R - \sqrt{R^2 - x^2}}{x^2} - 1 \right) = 0$$

$$\lim_{x \rightarrow 0} \left(\frac{2}{3} \cdot \frac{1}{x^2} \cdot \frac{x^2}{R + \sqrt{R^2 - x^2}} - 1 \right) = 0$$

$$\frac{2}{3} \cdot \frac{1}{2R} = 1 \quad \therefore R = \frac{1}{3}$$

ゆえに, $\frac{R}{\rho} = \frac{\frac{1}{3}}{\frac{1}{3}} = 1$ である.

講評

I (データの分析・漸化式)

(1) のデータ分析は基礎問題であったが、(2) の漸化式の問題については、誘導がやや複雑であり、計算量も多かった。ここで時間を取られると考えられる。

II (楕円・複素数平面)

基本的な問題である。しかし、離心率のところだけは手が止まったと考えられる。離心率に触れたことがない受験生がほとんどだと思うので、思い切って飛ばし、次の問題に取り組むべきだろう。

III (空間図形・幾何)

直円錐の展開図を考察させる問題。高校入試では類似問題を見かけることもあるが、大学入試ではほとんど出ない問題なので、問題設定としてこの問題は難しかったと思われる。

IV (微分法・極限)

計算量もなく、問題の誘導に従うだけの平易な問題であり、一番点数が取りやすい大問だったと言える。

全体として基本的なレベルの問題ばかりであるが、量が多く、問題の読み取りにも時間が掛かる。計算ミスをしたり、立ち回りを間違えると、時間内に高得点を取ることが難しい出題と言える。しかし、後期の倍率を考えると、高得点が必要になる。1次合格ラインは70%程度と考えられる。

本解答速報の内容に関するお問合せは

メルマガ登録またはLINE友だち追加で全科目を閲覧

メルマガ登録



LINE登録

